

10月の安全運転ごよみ

- 1日(木)～7日(水)...全国労働衛生週間
- 9日(金)...トラックの日
- 12日(月)...スポーツの日
- 17日(土)～23日(金)...薬と健康の週間
- 30日(金)...マナーの日

10月の安全運転目標

自然災害に備えよう

近年、地震や台風などの自然災害が頻発し、被害も激甚化しています。特に地震は予測が難しく、運転中に突然発生するおそれがあります。道路の隆起や陥没、橋梁の損傷などにより、安全な走行が困難になることもあります。そこで今回は、自然災害に備える安全運転方法について考えましょう。



近年発生した主な自然災害

自然災害には、台風や大雨、大雪のように事前にある程度予測できるものと、地震のように発生を予測することが難しいものがあります。それぞれの特徴を知り、災害に応じた備えをしておくことが大切です。

予測できる災害では、気象情報や道路情報を確認し、危険が予想される場合は運行の延期や中止を判断することが重要です。

一方、予測が難しい地震は、強い揺れを感じたら落ち着いて減速し、安全な場所へ停車して周囲の状況を確認することや、ラジオやニュース等で正しい情報を収集しましょう。

尚、この際にデマ情報等に惑わされないように注意が必要です。

年	自然災害	概要
2025年	1月8日からの大雪	日本海側を中心に大雪となり、高速道路や国道などで通行止めや車両の立往生が発生
2025年	8月6日からの大雨	8月6日から12日にかけて、北日本から西日本の広い範囲で大雨となり、河川の増水・氾濫や土砂災害が発生
2025年	台風第15号	9月に日本へ上陸し、強風や大雨のほか、竜巻による突風等の被害が発生。道路の通行規制など、交通にも影響が生じた
2026年	令和8年熊本地震	7月28日に発生し、最大震度7を観測。道路の路面変状や通行規制のほか、橋梁の損傷や橋脚の被害などが確認された
2026年	令和8年8月千葉豪雨	記録的な大雨により、各地で道路冠水や浸水が発生。冠水した道路では車両の立往生や水没など、交通にも大きな影響が生じた

近年発生した主な自然災害

事故事例 地震の発生とともに路面が突然隆起

令和8年7月28日に発生した熊本地震では、九州自動車道を走行中のタンクローリーのドライブレコーダーに、地震の揺れとともに路面が突然隆起し、車両が急停止する様子が記録されました。

道路は地震によって瞬時に変形することがあるため、強い揺れを感じた際は道路の異常を警戒し、周囲の状況を確認しながら慎重に減速・停止することが重要です。



地震発生時は道路の損傷を警戒する

地震発生時は、「道路は壊れない」という思い込みは禁物です。実際に大地震が発生した際には、路面の隆起や陥没、亀裂、段差が生じたほか、橋梁や高架橋、トンネル付近では橋桁のずれや落石などの危険が確認されています。業務運転中に強い揺れを感じたら、急ブレーキを避け、周囲の交通に配慮しながら安全な場所へ停車してください。

揺れが収まった後は、道路状況や交通情報を確認し、警察や道路を管理運営する団体の職員による指示・誘導等に従い、会社の指示も踏まえながら、安全を最優先に行動することが重要です。



道路の損壊も考慮して、安全最優先の行動を

台風接近時は無理な運行を避ける

台風接近時は、強風や大雨により、道路冠水や倒木、飛来物などが発生し、走行環境は一変します。

特に橋梁や高架橋、海岸沿いでは横風の影響を受けやすく、ハンドルがとられたり、車体の大きな車は横転の危険も高まります。

運転中は速度を控え、十分な車間距離を確保し、冠水した道路には進入しないことが重要です。

台風による危険が予想される場合は、外出予定の見直しや、オンライン会議への変更を検討するなど、無理な運行を避ける判断を最優先にしましょう。



無理な運行は避ける判断を最優先に

管理者として知っておきたい知識

災害時の運行ルールを整備する

地震や台風などの自然災害では、「どのタイミングで運行を中止するか」「会社への報告方法」「避難場所」「安否確認の手順」などを事前に決めておくことが重要です。

災害発生時に運転者が迷わず行動できるよう、平時から社内ルールを周知しておきましょう。



事前に決めておきたい4つの手順



皆様のご意見をお聞かせください

より良い情報提供のため、取り上げてほしいテーマなど、皆様のご意見をお聞かせください。

